



# ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2018年6月1日

6月号・第197号

奈良・人と自然の会

会長 鈴木 未一



薪割り (ベースキャンプ)

## Contents

ホームページでは、**カラー**で見ることが出来ます



URL <http://www.naranature.com>

壮春力歩	1	天平祭・報告	9
第17回通常総会・報告	2	ギャラリーならやま	10
Monthly Repo.ならやま	3	ならやまプロジェクト	11
私のふるさと	4	仲間入りしました	12
里山の今	5・6・7	行事案内 1	13
5月・自然教室チームだより	8	行事案内 2 & 行事予告	14
		幹事会報告・編集後記	15

# 壮春力歩

会長 鈴木末一

## スキルアップを目指して

風薫る5月19日、奈良市ボランティアインフォメーションセンターにおいて、第17回通常総会を開催し滞りなく終了したことをご報告いたします。大きな節目を越え新たな歩みを始めて2年。ひとしお感慨深いものがあります。

会が呱呱の声を挙げて以来17年、ならやまプロジェクト活動12年目を迎えます。会員は45人でスタートしたのですが、今や4倍にも達しようとしています。今日までの歩みの中で、紆余曲折はありましたが、生々発展の一途を辿ることができています。先達の皆さま方が、まさしくバイオニアスピリットを発揮され、「自分たちの前に道はない、後に道はできる」との強い信念でリードしていただいたことによると確信しています。

活動の理念に基づき、地域社会への貢献と連携の強化も進展させることができているのではと思います。とりわけ、行政や公益団体などの事業参画の推進や学校教育の一環としての学習支援活動にも精力的に取り組んできました。今日までの多面的な取り組みを通して、地域社会からの本会へのニーズなどについても分析し、スキルアップを図っていかねばと考えています。

昨年来、今までにない多数の新入会員の皆さま方をお迎えすることになりました。会員総数170人で、ならやまプロジェクト活動には、毎週80有余の方々に参加していただけるようになりました。若い世代の方々の占める割合も年々増加しています。そのような状況を踏まえ、できるだけ早い機会に、新入会員の皆さま方と胸襟を開き、語り合う集いを開催する予定であります。

本会も5年10年先を見据えて、理念に基づく活動の在り方について、会員相互の意思疎通をより一層図っていかねばと考えています。どうか皆さま方からご忌憚なくご意見をお聞かせください。よろしくお願いいたします。

## 200+200の眼差し

今年も平城宮跡で開催された天平祭ものづくり広場には、12の団体が子どもたちはもちろんのこと、大人の方も楽しめる趣向を凝らした内容のものが勢ぞろいしていました。本会は、ブンブンゴマと数珠玉ブレスレットとクマのプーさんペンダントの3点セットで出展参加しました。12の椅子席は、終日空席もなく、時には7~8人待ちの状態にもなるほどの盛況となり、隣のブースの方たちがうらやましように・・・。

出来上りの見本や材料などの説明を聞いている時から、一生懸命に取り組んで作品が完成するまでの間、子どもたちの表情がどのように変化していきだろうか。どのようなイベントでも、子どもたちの目の輝きや七変化(?)のような顔の表情など、100人いれば100の個性を垣間見ることができました。

ブースをひと回り見て、どれにしようか決めかねているように感じられた子が、会のブースの賑わいぶりに、「やりたい」「やってみよう」と決めてくれた時から、訪れてくれた多くの子どもたちの表情をつぶさに観察してみると――

例えば、

- ▽初めは心持ち自信がなさそうにしていたのに、作り始めると次第に目が輝き、完成した瞬間、満面の笑みを浮かべてくれる子。
- ▽製作に夢中になって取り組んでいる子に横合いからアドバイスするお父さんやお母さんの声には、耳もかさなないで、一心不乱に作業する子。
- ▽兄や姉に負けまいと懸命に頑張る弟や妹たち・・・。

1日当たり100人のペースで、子どもたちと自然工作に取り組んでいただいたスタッフの皆さんも、他のどのブースよりもいち早く目標数を達成することができ、ひと息つく暇もなかった忙しさからくる疲労感も、子どもたちの喜々とした表情と、「ありがとうございました」と挨拶してくれた明るい声に心癒され、次なる機会へのエネルギーとなっているものと思います。

## 第17回 通常総会報告

小島 武雄

2018年5月19日(土)晴天快晴に恵まれ、奈良市ボランティアインフォメーションセンターにおいて第17回通常総会が開催され、冒頭、司会の八木副会長から、出席者51名、委任状提出者103名の合計154名は会員総数169名の過半数を満たしており、本総会は成立した旨が報告された。

続いて、鈴木会長から、「2017年度は会創設15周年、ならやまプロジェクト活動開始から10周年の節目となった年であり、多くの記念事業を行い、緑化推進運動功労者内閣総理大臣賞、緑の都市賞、明日のなら賞、生物多様性アクション大賞など数々の賞を受賞したことによって、地域社会をはじめ多方面からの認知を得ることができたことをともに喜びたい。そしてそれらの歩みを礎にして更なるスキップアップに努めてよりすばらしい会にしていきたい」との挨拶があった。



次に、議長に選任された有元康人さんの司会のもとで議案の審議が始まった。第1号議案では2017年度の事業の概要が説明され、中でもならやまプロジェクトについては各グループリーダーからそれぞれ具体的な報告もあり、適正であるとの監査結果に基づく収支報告とあわせて、事業報告全体が承認された。

第2号議案では役員改選について審議、幹事20名(再任17名、新任3名)、監査役1名(再任)の選任が承認され、直ちに新幹事による臨時幹事会が開かれて次のとおり役職分担が決定された。



会長：鈴木末一

副会長：八木順一、羽尻嵩、平田範光

会計：三瀬英信、田矢恵造、下村晴文

事務局長：辻本信一

監査役：塩本勝也 (敬称略)

あらためて、鈴木新会長から、幹事退任者への感謝の言葉が述べられたあと、「今年度もならやま会員の皆さまが主役であり、それぞれの良識ある個性を発揮してほしい。



また情報の共有と意思の同意形成をして一致団結していきたい。各課題については皆さまの協力を得ながら進める。また20数名の新会員の志を受けとめられるような活動を行い、当会の基本理念を受け継ぐためにも新会員の方々と研修や意見交換も行いたい」との挨拶があった。

最後に、第3号議案である第18期の事業計画案および予算案が承認され、その他質疑応答といくつかの会への提案がなされた後、総会は終了した。

午後5時からは、場所を「ホテルリガーレ春日野」に移し、多数の参加者のもと懇親会が開催された。



**Monthly Repo. ならやま**

八木 順一

**4月26日(木) 活動 晴れ 83名**

テントが完成した。屋外では強い日差しの下での作業が続くが今日も参加者の多さに驚く。打ち合わせでは来週の協働作業やアダプトプログラムが中心となる。新入会員1名。里山Gはテント作製とイベント準備、エコGは豆類の種まきとナスなどの植え替え、景観Gはタケノコ掘りと草刈りを実施。その他、ビオ班は池周辺の草刈りと水生生物調査、花班は花畑の草取りと整地、そしてパトGは4コース



パトロールとAコース作業を行う。また果樹班はブルーベリー園のネット張りに取り組んだ。

**5月3日(木) 活動 晴れ 73名**

朝方まで雨だったが、作業開始時はさわやかな気候になった。また、連休にもかかわらず多くの会員が活動に参加する。協働作業では、植菌されたマツタケ菌の土壌流出などの対策のためにシート



張りが行われる。アダプトプログラムでは15袋のごみが集まった。里山Gは倉庫整理と薪

割り、エコGは野菜類の植え付け、景観GはBC付近の草刈りを実施。その他、ビオ班は池の泥上げ、花班はジャーマンアイリス園の草取り、そしてパトGは1コースパトロールとA地区の竹整理を行う。また果樹班はブルーベリー園のハウスを完成させる。

**5月10日(木) 活動 晴れ 80名**

さわやかな一日になり、順調に活動も進む。また今日も80名がサイトに姿を見せる。今年度は、昨年度に比べ、活動参加者が毎回10名ほど増えている計算だ。打ち合わせでは、先日行われた天平祭の参加お礼や、傷んでいるサイトの水路の壁



の修理を臨時協働作業で行うことが提案された。里山Gは観察路枯死木処理や薪割り、エコGは玉ねぎの収穫の他、サツマイモの植え付けなど、そして景観Gは彩の森の草刈りを中心に行う。またビオ班は池周辺の草刈り、花班は花畑の草取り、そしてパトGは観察路草刈りや2コースのパトロールを行う。加えて果樹班のグミネット張りも完成した。

**5月17日(木) 活動 晴れ 74名+3名**

蒸し暑い。まるで梅雨のようだ。しかし今日は臨時の協働作業日。参加者全員で水路の壁の修理



用に佐保自然の森の竹を切り揃え、サイトまで運ぶ。来週も少々作業が残るようだ。打ち合

わせではこの暑い気候のために水分を十分摂ることや総会の案内が改めて行われる。会にとって一番大切な会議、心してたくさんの方の会員に参加して欲しいものだ。里山Gは薪割りや枯死木の処理、エコGは野菜の収穫の他、ナスやシシトウなどの植え付け、そして景観Gは駐車場などの草刈りを行う。またビオ班は水生生物調査、花班は花畑の移植や草取り、そしてパトGは3コースのパトロールを行う。



## 私のふるさと

### 浮き草のよう

岡田 安弘

「出身はどちら？」と聞かれ、いつも返事に困る。北朝鮮の清津（チョンジン）で生まれ、2歳まで過ごす。父の転勤で京城（現ソウル）へ。敗戦で京都に引揚げたのが5歳。高校時代から就職前までは大津。ひと昔前、枚方に落ち着くまでに福井、西宮、豊中、松山、博多、奈良など転々とするこゝと15回。浮き草のようなものだ。

朝鮮半島は日本の植民地だった。父は当時の青年らしく新天地を求め、結婚と同時に清津の電力会社に就職した。清津は中国との国境をなす鴨緑江（おうりょっこう）の南、日本海に面した極寒、凍土の都市。ロシア国境も遠くない。日本人拉致の船が出入りした港がある。最近では漂流漁船の基地として知られる。記憶にはないが、そこが生まれ故郷。

父の転勤がなければ生存は危うかったかもしれない。敗戦と同時に「北」にソ連軍が侵攻、爆撃の混乱下で略奪、暴行、飢餓がまん延。故郷に戻れずに亡くなった日本人は3万数千人といわれる。

この原稿を書き始めたとき、朝鮮半島の南北首脳会談が開かれた。金正恩・朝鮮労働党委員長の破顔一笑、融和ムード満点の光景が世界を駆け巡る。豹変ぶりに驚く。とっさに思ったのは、とうとう経済が破綻したのではないかという事だ。

トランプ大統領との米朝首脳会談が近づく。「小さなロケットマン」「老いぼれ狂人」と蔑称で、のしり合った二人だ。どんな表情で向き合うのか想像し難い。

事前協議が水面下で展開している。米国の意向は、「北」が非核化を完全に履行すれば体制の保証と経済制裁の解除を約束すると言う。ただし、要求をのまねば「体制崩壊だよ」とクギを刺す。

拉致あり、血の粛清あり、国際協約を反古にして核を備蓄してきた国が相手だ。一筋縄では行きそうにない。

トランプ大統領は手柄がほしい。自分の政策が

審判される中間選挙が秋に控える。手打ちを急いで、肝心の非核化が置き去りにされはしないか心配だ。二人とも主役を任じる。どちらかが舞台を蹴って決裂って場面も無いわけじゃない。

話はさかのぼる。私が故郷を感じるのは京城の古巣だ。平屋の日本家屋に、朝鮮式暖房 オンドルの間。大便是凍って積もる。チマチョゴリのお手伝いさんが棒で折っていた。父は敗戦の残務で居残り、母と引き揚げた。母は生後間なしの妹をねんねこに包んで胸に固定、背にリュック、両手に荷物。バンドに手ぬぐいを通し握らせる。「離れたらあかんえ」。孤児にならぬよう、強い口調の母の京都弁は今も声が甦る。引揚げ船や引揚げ列車の記憶はない。疲れて眠りこけていたそうだ。

朝鮮戦争で焼け野原といわれた京城に、木造の我が家が残っているはずはない。なのに無性に確認したくなる。折りしも日本の朝鮮併合から百年の節目、2010年。植民地支配の謝罪と古巣確認の旅を決意する。

家は路地の突き当たり。電車道に出ると、景福宮内にある朝鮮総督府（日本政庁）が目の前。塀の上から警備兵が銃を向けていた。この程度の記憶だけが頼りの探索だ。景福宮の塀にたどり着くも路地が見当たらない。行き交う車の激しい流れと騒音に、古巣の記憶がかき消されそう。

後日、同じ時代を京城で暮らした年長の従姉と連絡が取れた。「遊びに行ったから覚えている。町名は孝子洞。青瓦台の傍の電車の終点駅から南へ徒歩5分」と教わる。2年後に再訪。終点駅の跡地から右に政府系施設、左に景福宮の高い塀を見ながら歩く。ぴったり5分で路地を発見。突き当たりの家は洋館になっていた。

♪～～♪～～♪～～#～～♪～～♪

私は酒と煙草とジャズがあれば、それでいい。海外旅行にも関心がない。恥ずかしながら旅券を手にしたのは70歳。職場で古参兵のころ、ジャズを聴くためソニーのウォークマンを購入。それを見た初年兵が「おっ」と声をあげ、「遅れてきたウォークマン」と続けた。うまいこと言いよるなあ。人ごとのように感心する。1周遅れの私らしく、ふるさととは「ならやま」と言えるようにありたい。

## 里山グループ

戸田 博子

## ◆花と妙薬

里山グループに入れていただいて、ほぼ1年になる。国道24号やならやま大通りの車の音も聞こえないほど、いろいろな作業に没頭した。

2月号に、菊川さんも薪割りのことを書かれていたが、ガスや電気が豊富に使えなかった時代には薪割りは通常の作業であり、今ほど「里山」を取り立てて話題にしていなかったと思う。

ナラ枯れの木、他の木を生かすために伐られた木など薪の材料には事欠かず薪割り作業をしている。

割っている木の断面を見ていると、この木の生きてきた年月を想像してしまう。大きな節があれば「痛い思いをして成長したのか?」。年輪が黒いと「気候が激しく変化したのか?」。木からたくさん甲虫類の幼虫が出てくることもある。突然明るくなって、慌てて木に逃げ込もうとしている。幼虫は樹液を吸いながら成虫になるわけだから「木も弱っていただろうな?」。

見ているうちに、人間の生き方も同じような気がしてくる。少し落ち込み気味な心を修復してくれるのが、周りにある元気な樹木たちだ。

5月から7月にかけて白い花を咲かせる木が多い。個人的には、カエデ、ナラ、クルミなど緑色のつり下がった花が好きだが、一瞬で周りを明るくする白い花は、心の中の雑色をリセットして活力をくれる気がする。

パトロールグループの方が、毎回花の情報を提供してくれる。「ウワミズザクラ」「ザイフリボク」「ウツギ」名前は忘れやすいが、花の姿は記憶に残る。

木の「人生?」を思い、虫の動きに哀れみを感じ、木の花にうれしさをもらう。

里山は、病院で治療し投薬してもらうだけでは得られない、形のない「妙薬」をくれると思う。

これは個人の感想だが、この会にこられるかたがたは多少なりと賛同されるかな?



里山の今

## エコファームグループ

小山 喜与男

## ◆種子考

「今年は野菜の種を収穫して、それを栽培に活かしたい」リーダー萱野さんの年頭所感である。種の大半を園芸材料店から購入している現状を指して、今年は自家採取を試み経費の抑制を意図した提言と受けとめた。

昭和20年代を田舎で過ごした吾が家では、種は畑で穫っていた。僅かな畑地の片隅にナス・キュウリの優れものを種用に数箇残し、稔らせ熟した姿は化け物のような醜態をさらしていた。ネギ坊主を束ねて軒下に吊したり、カボチャやマクワウリの種も箆に展げて干した。こまめな母の所作が目につぶ。

種は購うものでなく、自家採取で切り廻していた。岩手の久慈市ではお婆さん達が、今でも豆の種を交換する風習があるという。

我がエコファームで蒔く種は多種に亘る。なかでも印象深いのが「YRくらま」と名乗るダイコンだ。Yはイエロー（萎黄病）Rはレジスタンス（抵抗）、葉の黄白化を防ぐ処置が施してある。フランスのレジスタンス運動を連想させる名称に名付け親の苦渋が偲ばれる。「F1」も初耳だ。「F1ハイブリッド」が正式名で、京都のタキイ種苗がアブラナ科で採用に成功。斉一性、早熟性、強健性、多収性などの長所があり、今やF1万能時代と云われる。フィリアル（子供としてふさわしいの意）の頭文字Fが出所。

購入した種の袋の生産地をみると外国名が圧倒的に多い。これら諸外国での狙いは、人件費などコスト抑制もあるが最も大きな理由は種の病気を誘発する梅雨期のない土地を確保する点にある。梅雨のない北海道は生産地として健在だ。

夏野菜の苗の植え付けも一段落し、育成期の真っ只中、その一隅に背を伸ばし黄色く咲き誇るナバナの群れが見受けられる。これが熟成し種子となり、次代に引き継がれていく。生生流転の極みである。

## 景観グループ

有元 康人

### ◆竹林の整備

今年のタケノコの収穫も終わりましたが、多くの方が春の旬を味わえたのではないのでしょうか？

タケノコの国内生産の割合が8%しかないという2009年4月の現代農業に載っていましたが皆さんご存知だったのでしょうか？現在の生産割合がどうなっているのか、加工用だと思いますが、どこから輸入されているのか気になります。

竹林も、除草をして傘をさして歩ける範囲に間引きを行うなど景観グループで定期的に整備してきました。

皆さんも感じてもらっていると思いますが、管理地の多くの竹林、特に実りの森では、美しい姿に変貌しています。

竹林で生産されるものは、タケノコだけではありません、それ以外にも工作用、梁や支柱用、竹炭、飼料やコンポストなど多種にわたります。

土木建築用では竹そのものを必要な寸法にして利用しますが、コンポスト用では竹をパウダー状にチップパーで粉碎してから堆肥化を行い利用します。孟宗竹にはチッソ：0.3%、リン：0.2%、カリ：0.7%、その他ケイ素やホウ素も含まれているといわれています。コンポストは、他の肥料と併用が必要になりますが、さまざまに使っていただくと竹林整備に力が入ると思います。

竹林整備の一つの方法として、NPO法人（フォレストぐんま21）で取り入れている方法が文献に載っていました。12月～2月に竹を1m程度の高さに伐採すると3月～4月に根から水を吸い込み切断部分から流れ出るそうです。多くの水を吸い上げることで根から枯れ、1年後に竹の先端をゆするだけで根がポロッと取れるそうです。

現状の方法では、竹の切断で残った根っこの部分があり、足を引っかけて転倒する事があります。根っこが無くなるとこの危険から解放されます。

この方法を、試してみたいと思っています。



里山の今

## パトロールグループ

小島 武雄

### ◆パトロール REPO

愛すべきならやまの自然を守るための、環境保全パトロールをしています。今回A地区の整備に取り組みました。このエリアはベースキャンプ西

側でならやま大通り沿いの田と池の北側で、ここにも観察路があります。大通りからは竹やぶで隔てられて思いの外静か



です。ミツバチの巣箱を横に見て、畑から観察路への坂を登ります。すぐそばには栗の木があり秋には小ぶりの栗がたくさんとれます。肉桂の木がある所から西に椿の中を歩くことができます。ここにはナラ枯れの被害もありません。気持ちよく木漏れ日の中を歩くことができ、適度な日陰で大切にしている保護植物も多く見ることができます。

パトロールGでは、しばらくの間手を入れておらず荒れていたのですが、やぶを切り開き新たに道を作り西の端のJRの境界まで観察路を伸ばしました。急斜面には丸太階段を4箇所新設して、歩きやすく整備しています。

既設の4コースに比べては短いですが、平坦な雰囲気の違いが観察路になりました。今後はならやま大通り



沿いに伐採され放置されている見苦しい竹材の山を片づけ、コース案内標識や手すりを設けて整備し、A地区観察路として皆さまに楽しんでもらえるようにしたいと思います。

# ならやま虫だより

菊川 年明



里山の今

# ならやま花だより

桜木 晴代

## ◆ホソオチョウ

今回は、ならやまに希に現れるホソオチョウというチョウについてのご紹介である。

このチョウはアゲハチョウ科に属するが、大きさは見慣れているアゲハチョウ（ナミアゲハ、以下同じ）よりずっと小さく、モンシロチョウよりは大きいかなという程度である。

色彩は雌雄で異なり、オスは白っぽく、メスは濃紫の斑紋が多いので少し黒い感じである。後翅にアゲハチョウのような尾状の突起があり、これが細長いので「ホソオ」の名が付いている。

このチョウは元々が国にはいなかったチョウで、原産地は中国、朝鮮半島などである。1970年代の後半頃に何者かが持ち込んで東京都下で放ち、その後、国内のあちこちに拡散して、1990年代には京都府下の木津川河川敷（現木津川市域など）でも見られるようになった。国内での拡散も人為的なものと言われている。

現在生息が知られている都府県は少なくないが、生息場所は局地的と言われている。ならやまに現れるものは木津川からの飛来と思われる。飛翔力は強くないので、風に流されるなどしてのことかもしれない。

幼虫の食草はウマノスズクサで、ジャコウアゲハの幼虫の食草と同じであるので、ジャコウアゲハに悪影響があるのではないかと心配もされている。

ホソオチョウはジャコウアゲハと同じようにゆっくり、ひらひらと飛ぶ。ジャコウアゲハと同様にウマノスズクサ（有毒植物）の毒を体内に蓄積し、天敵に襲われる心配がないのかもしれない。



(ホソオチョウ オス)

(同 メス)



## ◆万葉花

絵画に描かれている花や、万葉集に詠まれている花にはどのようなものがあるのかは興味深いのですが、ならやまにも万葉集に詠まれている花がたくさんあるに違いありません。その花たちに幾つ出会えるか楽しみです。その一つがアセビです。

### 磯の上に 生ふる馬酔木を 手折らめど 見すべき君が ありといはなくに

大伯皇女（おおくのみめみこ）

（川の辺の岩のほとりに生えている馬酔木の花を手折りたいけれど、それを見せるべきあなたがこの世にいるわけではないのに）亡き弟、大津皇子を思い、悲しい気持ちを詠んだうたとされている。



アセビの花



アセビの実

### アセビ（馬酔木） ツツジ科 アセビ属

\* 東アジアと北アメリカに8種類ほどある

\* 常緑低木 高さは1～8メートル

\* 「あしび」は「足しびれ」や「悪し実」から名がついたと言われている

\* 馬が食べると酔ったようになり、人間も呼吸中枢を麻痺させる有毒植物

\* 有毒成分を利用し、葉や茎の煎汁はハエ、ウジの殺虫剤や牛馬の皮膚寄生虫、農作物の害虫駆除に用いる

アセビは多くの別名を持っています。

アシミ・アシビ・アシブ・アセボ・アセブ・ドクシバ・テカキシバ

その他奈良公園の鹿も葉が有毒のため食べないことから、シカクワズという名までであるということです。

早春のならやまの森で見つけてください。

# 自然教室だより

## 5月・新緑のならやま自然観察会報告

辻本 信一

平成30年5月14日(月)、「ならやま」にて今年2回目となる観察会を開催いたしました。

前日までのドシャ降りの雨もすっかりあがり、当日は朝から快晴の願ってもない観察日和となりました。おかげで参加者も17名となり、活気あふれる楽しい観察会となりました。



【朝の集合】

これまでの観察会では、私たちの身の回りの植物の姿かたちを捉え、草花の種を特定する、同定作業に重きを置いた観察会を進めてきましたが、今回はさらに一歩踏み込み、健気にかつたくましく生きる植物の生態に目を向け、その生き方に視点を置く観察会を心掛けました。

そのため、聞きなれない植物用語もたくさん飛び出し、参加者の皆さまには多少の戸惑いもあったかと思いますが、皆さん熱心にメモを取っていただき、終始真剣に説明を聞いてくださいました。

四阿(あずまや)のそばに植えられた郵便局のシンボルツリー、タラヨウの前では、葉の裏への字書き実演に続き死環(ライターであぶってできる黒い輪っか模様)の様子をクイズ(左右に重なる死環の合わせ目の模様は?二重丸の死環はどうすればできる?)を解いてもらいながらの観察。参加者の皆さまからは驚きの声が出ました。



【タラヨウの観察】 【池の周りは野草の宝庫】

西池に向かう途中では、ナンテンの葉に注目。多数枝に分かれている枝のような部分は、それ自

身が大きな1枚の葉(複葉)であることを説明、単葉、複葉の違いをご理解いただきました。

その隣では、同定の材料となるひときわ目立つ托葉(たくよう:葉の基部や葉の柄に生じる葉に似た部分)を持ったノイバラを観察。

カラスノエンドウの托葉上の黒い点(花外蜜腺)観察中には、折よく蜜目当ての蟻が枝を行き来する姿が目にとまりました。



【複葉形成過程説明】 【カラスノエンドウ観察】

この後も、ガクや花びらに代わる外花被片(ガイカヒヘン)、内花被片(ナイカヒヘン)それぞれ3枚からなるシャガの変わった花の構造とメシベに隠れたオシベの様子、単面葉(葉の裏面が表面を挟みこみ裏面のみで構成される特殊な葉)からなるシャガの葉の構造観察。

ムラサキサギゴケのメシベの柱頭運動(ペン先などでメシベの先に刺激を与えると開いていた口が閉じる)については、それぞれがペンとルーペを持ってその動きを確認しました。



【里山入山】 【エゴノキの花】

他にも、蜜を持たないシランの、虫に花粉を運んでもらうための強かな工夫などなど、里山入山時の観察も含め、目につくものすべてが教材となり、植物観察の話題は尽きませんが、紙面の関係で今回はこの辺までとさせていただきます。



自然に興味のある方、植物のことをもっと知りたいと思われている方は、これからも楽しくためになる観察会を開催いたしますので、次回はぜひご参加ください。

平城京天平祭・春 2018 実施報告

子どもも大人も楽しめる

『ものづくり広場』

辻本 信一

ゴールデンウィークのこの時期、毎年恒例となった奈良県・奈良市主催の平城京天平祭・春 2018 に、木曜日のならやま活動日を除く、5月4日(金)と5月5日(土)の両日、佐伯門東側広場に設けられた「ものづくり広場」に小間を構え「クマのペンダント」、「ジュズダマブレスレット」、「竹のブンブンゴマ」の3点の自然工作を出展しました。



【自然工作3点セット】

材料には昨年秋に採取したドングリの殻斗や竹林から切出した竹材、専用花壇で育てたジュズダマなどならやま産の材料をふんだんに使用。その加工には1ヶ月以上の期間を要し、里山グループを中心にたくさんの会員の方々の協力を得ました。

イベント当日は、多少の風はあったものの春の陽気に包まれ、県の発表によると初日3日は1万2千人、4日は1万6千人、5日は1万5千人と、昨年同様、たくさんの来場者がありました。

当会よりスタッフとして参加された方は、5月4日が14名、5日は13名で延べ27名。それ以外にもたくさんの会員の方々がご家族と共にお客さまとして私たちの小間を訪れてくれました。



【ものづくり広場入口】 【お客さま第1号】

両日とも午前10時の開始間もなく満面の笑みを浮かべた第1号のお客さまが来場。かわいいお

客さまが No.1 と番号の打たれたチケットを少し照れながら、それでも少し自慢げにそっと差し出してくれました。それを皮切りに8脚用意した席はすぐに埋まり大忙しの一日のはじまりです。

夢中に自然工作に興じるお子さんの隣では、熱心に我が子の姿をビデオに撮られる若いお父さん。どちらの家族も暖かい空気に包まれ、大型連休を存分に楽しまれている姿が印象的でした。



【パパはカメラマン】 【会場には多くの出店】

隣の会場では、野外ステージ上で歌やダンスのパフォーマンスが披露され、お客さまも一緒に拍手喝采。飲食・物品販売のお店も多数出店し、昼からも客足は途絶えず、会場内は常に熱気に包まれ大変な盛況ぶりでした。

そうした中、私たちの小間とはいうと、出し物のかわいさプラスお値段のお手頃感もあり連日の大入り満員。昼食時間に少し空きができた以外は午前10時の開始からチケット販売終了の4時過ぎまで、お客さまの席は常にふさがったまま。10名以上いるスタッフも、全員がお客さまの対応に追われるありさまでした。



【大入り満員】 【スタッフ全員出動】

そんな努力のかいがあつて、初日99セット(クマのペンダント、ブンブンゴマ、ジュズダマブレスレット3点で1セット)、2日目101セットと予定の合計200セットを完売いたしました。

準備段階から、本番を経て最後の片付けまで、ご協力いただきました全ての会員の皆さまにこの場をお借りして心より感謝いたします。

ありがとうございました。



# Gallery ならやま



▲油彩 10号「冬の浮見堂」 小田 進八郎



▲陶芸「一輪挿し」 西岡 正平



▲写真「ヤマガラの子」 青木 幸子



▲クラフト「ウェルカム人形」 鈴木 末一



▲園芸「C.Fabingiana Hibarigaoka」 坂東 久平

皆様からのご応募をお待ちしています。  
絵画・陶芸・写真・墨絵・手芸作品・  
パッチワーク・切り絵・自然工作など

# ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず

## 活動予定日

6月	7 (木) 14 (木) 21 (木) 28 (木)
7月	5 (木) 12 (木) 19 (木) 26 (木)

◆場所：奈良市佐紀町、奈良阪町、法蓮町、法華寺町にまたがる約 16 haの里山林地（県有林）

◆集合：現地ベースキャンプ・午前9時

◆終了予定：午後3時

### ◆アクセス

① JR平城山駅下車：東口から南へ徒歩 10分

② 近鉄奈良駅：バス 13 番乗り場 115 系統  
8：28 発、高の原行き（平日）

③ 近鉄高の原駅：バス 1 番乗り場 115 系統  
8：36 発 JR 奈良駅西口行き（平日）

②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」下車  
徒歩 7分

◆携行品など：弁当、飲み物、軍手（作業用具は現地で用意）



◆環境保護のため、お椀、箸、コップなどは各自ご持参ください。



◆連絡先：八木 順一

## 里山

**6/7** 「協働作業」 シイタケ櫓木本伏せ  
自然林内散策路の整理

薪割り・薪材運搬／下草刈り

**14**

自然林内散策路の整理

薪割り・薪材運搬／下草刈り

**21** **28**

自然林内散策路の整理

薪割り・薪材運搬／下草刈り

イベント用工作物の準備

## エコファーム

**6/7** 「協働作業」 シイタケ櫓木本伏せ  
田植え実習（佐保台小・会員）

玉ねぎ ニンニク 畑耕耘

**14** 田植え予備日

黒大豆の播種 南瓜 西瓜ツルの整理

追肥 ジャがいも収穫

茄子 唐辛子 剪定追肥

**21** 春の感謝祭（じゃがいも祭り）

じゃがいも収穫

**28** ジャがいも畑 チップ入れ耕耘

さつまいも 里芋除草 追肥

## 景観

**6/7** 「協働作業」 シイタケ櫓木本伏せ  
整備：BC 周辺の草刈り整備

ビオ池：西池生物調査

花：七草園畑作り、草取り

**14**

整備：BC 周辺の草刈り整備

ビオ池：池の整備

花：駐車場横花壇作り、移植

パンジー撤去、夏花移植

**21**

整備：佐保自然の森草刈り整備

ビオ池：池の整備

花：千日紅、マリーゴールド移植、草取り

**28**

整備：彩りの森草刈り整備

ビオ池：西池生物調査

花：コスモスの種まき山野草園草取り、施肥

## パトロール

**6/7** 「協働作業」 シイタケ櫓木本伏せ  
里山観察会

A 地区の放置竹材の片づけ

**14** **21** **28**

観察路の笹草刈り／丸太階段補修



**仲間入りしました**

**上田 かつゑ**

大阪のマンションに住んでいるので、お日さまの下で、土いじりをしたいと思い入会しました。

体力に自信はないのですが、自然いっぱいの「ならやま」で、四季の移り変わりを感じながら、皆さまに教えていただいて、里山を守り、おいしい野菜を育てる体験をしていきたいと思ひます。

よろしくお祈ひします。

\*\*\*\*\*

**植野 益行**

シニア自然大学校24期緑組を3月に終了し、4月から入会させていただきました。

樹・陽・土・水と人に触れ合える「ならやま」で、皆さんと一緒に楽しく作業したいと思ひています。いろいろな楽しみ方や、知識を教へてもらえたら幸せです。

樹と楽しく遊びたいと思ひています。

よろしくお祈ひいたします。

\*\*\*\*\*

**大畑 むつみ**

奈良から平城山方面へ行く JR の車窓から見えるのは、うっそうとした森（竹林？）ですが、その奥にこんなに素敵空間（風景）があったなんて！その驚きと、そこで生き生きと行動し、ものを作り出している人たちの姿を見て、私も仲間に入りたいと思ひました。

私は山の中を歩いたり、野良仕事をしたりするのが大好きです。先輩の皆さんに教へてもらって、我が家の畑も、ならやまの畑のように美しい畑にしたいと思ひます。よろしくお祈ひがいたします。



**越智 健介**

4/5 のタケノコ、早速おいしく頂きました。食べる事のできる自然の恵みは特に大好きです。

若い頃、休日はオフロードバイクで近所の山に自然を求めてツーリングによく出かけていました。ここにきて自然にまみれて活動できる場への入会ができたことを本当にラッキーだと思ひています。皆さまとのコミュニケーションを通じて、さまざまなお教授をいただきたいですし、(実は植物や昆虫の名前などほとんど解っていません) 皆さまについて行ければ幸いだと思ひますので、どうかよろしくお祈ひします。

\*\*\*\*\*

**古川 浩**

3月上旬、縁あって十数年ぶりにならやまを訪問させていただいた折、大勢の参加者と歴史的風土保全地区の維持管理の拡大状況に驚いた次第です。

当時、苗木の植え付け作業を手伝った南高梅も立派に生育し、沢山収穫されているようで、さらに果樹園を開園され一層充実した活動状況に魅力を感じ、早速入会を決心。微力ですが皆さまと気楽に楽しく活動したいと思ひております。

\*\*\*\*\*

**八木 建彦**

半世紀以上にぶりに故郷の奈良に帰ってきて1年半、どのようにして奈良の地に足つけて生きていくか考へていた。その時、天川村や東吉野村に地域自然エネルギーの試みを見学にいて感銘を受けたが、そこで聞いた古老の「土に還る」との言葉には心うたれた。そのあと、山形置賜おきたまの百姓が「土とはさまざまな命の遺体の積み重なりで、そうして新たな命を育む」と語っているのを読んで衝撃を受けた。それでこの会に参加して、昔から歌に詠まれたならやまで土にふれていくことになった。

全くの初心者ですがよろしくご指導願ひします。





# 行事案内 Part 1

## 6月月例研修会のご案内 葛城氏ゆかりの地を巡る

今回の月例研修会は、金剛山と葛城山の東裾野を通る「葛城古道」を歩きます。

御所市付近は、天孫降臨の舞台になった史跡高天原や祭祀関係を司った鴨氏を祀る神社の存在などから、古くは神々が集まる神聖な場所として敬われていました。古墳時代以降、葛城氏が勢力を伸ばし、特に葛城襲津彦（かつらぎそつひこ）の時代に大王家と姻戚関係を結ぶとともに朝鮮半島に出兵するなど軍事面でも活躍をし、一躍大和政権内で有力豪族になりました。今回は、葛城氏ゆかりの場所をめぐる。



葛城氏館跡のそばに立つ極楽寺鐘楼門

### 【実施要領】

日 時：6月5日（火）午前9時集合

集合場所：近鉄大和八木駅南口前

コース：風の森バス停—高鴨神社—高天彦神社—史跡高天原（昼食）—極楽寺—長柄神社—一言主神社—宮戸橋バス停（15：55）約10km

持ち物：弁当、飲み物、雨具、ストックなど

費用：バス代（行き910円、帰り720円）

担当：富井忠雄、桜木晴代、下村晴文

申し込み：不要（前日夕方のNHKの天気予報降水確率60%以上で中止）

問い合わせ先：富井忠雄

### 自然教室チーム行事案内

#### 6月自然観察会 初夏の奈良公園 子鹿観察

奈良公園の鹿の保護施設「鹿苑（ろくえん）」では、5月2日、昨年より

5日早く、体重4キロの

男の赤ちゃんが誕生しま

した。鹿苑では6月1日

～30日午前11時～午後2

時、子鹿が特別公開されます。【今年の第1号】

入場料300円が必要ですが、この機会を捉え昨年同様下記要領にて子鹿の観察会を実施しますので、皆さま奮ってご参加ください。

1. 日 時：6月18日（月）10時～14時
2. 集合場所：近鉄奈良駅 行基菩薩像前
3. 持参物：弁当、飲み物、あれば双眼鏡など（帽子、日傘など、暑さ対策もお忘れなく）。
4. 子鹿観察の前後には植物観察も実施します。



#### ◆ 佐保台小学校 放課後子供教室

##### 自然観察会実施予告ならびにスタッフ募集

佐保台小学校放課後子供教室よりの依頼を受け、下記要領にて1～6年生対象に校庭の自然観察会を実施します。スタッフを募集しますので、ぜひご応募ください。

1. 日 時：6月6日（水）  
午後1時30分集合、午後4時30分解散
2. 場 所：佐保台小学校 佐保台3-902-341
3. 内 容：校庭の植物観察、自然工作実施

#### ◆ 育英小学校 校庭の自然観察会

##### 実施予告ならびにスタッフ募集

育英小学校より依頼を受け、下記要領にて1・2年生を対象に校庭の自然観察会を実施します。スタッフを募集しますのでぜひご応募ください。

1. 日 時：6月11日（月）  
午前10時30分集合、午後1時前後解散
2. 場 所：育英小学校 奈良市法蓮町1000
3. 内 容：校庭の植物観察、自然工作実施  
（担当：辻本）

# 行事案内 Part 2



## 春の感謝祭 (じゃがいも祭り)

6月21日(木) 12時~13時予定  
(雨天の時6月28日)(木)

青葉、一段と色濃くなってまいりました。  
ならやまベースキャンプでエコファーム一同いろいろとアイデアを出し合い、ならやま産の有機野菜たっぷりの「ならやま特製カレーライス」を会員の皆さまにご賞味していただこうと考えています。春作野菜も育苗ハウスを増設し、グループの皆さんが毎日水当番を決めて丹精込めて苗作りに励んでいただきました。おかげさまでグループの皆さんの情熱に応えるかのように苗も順調に育ち、畑で健やかに実った、じゃがいも、茄子、玉ねぎ、ピーマン、トマト、レタス、ズッキーニ、カボチャなどの各種野菜をふんだんに盛り込んだ自然食をご提供できればと考えています。



またご飯は、ならやま有機栽培の黒米入りをご用意します。黒米に含まれるアントシアニンは、美肌や美髪を作り出す美容効果や、視力を回復するという効果もあるといわれています。豊富な栄養効果のある黒米もぜひご賞味ください。

エコファームグループと女性会員の皆さんの応援をお願いします。

会員の皆さま方の参加をお待ちしています。  
なおカレーライス用お皿とスプーンなどご持参ください。



## 元気っ子 田植えにチャレンジ

・・・佐保台小5年生・水稻栽培体験学習

2009年に始まった総合学習の一環としての体験学習は、10年目を迎えることになりました。以前は運動場の片隅で、バケツで水稻栽培に取り組んでいました。ならやまの里地で水田が復活したのを契機として、本格的な水稻栽培について、事前学習から収穫までの約半年間にわたって体験してくれています。初めの年は、11名でありましたが、年を追って子どもたちの人数も増え、倍になってきました。佐保台の元気っ子たちのにぎやかな声が、ならやまに響き渡ることでしょう。

◇ 6月7日(木)午前10時~正午  
(雨天の場合は14日)

◇ 5年1組 男:13名 女:11名

◇ 水稻の品種:紫黒米「さよむらさき」

最多数の子どもたちが、田植えにチャレンジしてくれます。会員の皆さんと一緒に取り組んでもらいます。皆さんのご指導をお願いします。



### 7月ならやま活動&行事予告

- \* ならやま活動 (木)
  - 7月5日 協働作業の日
  - 7月16日 夏だ休みだ里山で遊ぼう①  
(予備日7月28日)
- \* 歴史文化クラブ
  - 7月10日(火) 比叡山延暦寺 (最澄と南都仏教) 西大寺駅南口 8時発 (マイクロバス)
- \* イベント ポスト「全国豊かな海づくり大会」
  - 7月16日(月・祝) 山もり・てんこ森  
~山・川・海の恵みを未来へ~  
県立野外活動センター(奈良市都祁吐山町)

## 平成30年・5月度幹事会報告

日時：4月24日(火) 14:00~16:00

場所：奈良市中部公民館 2F 学習室

出席者：24名 欠席者：3名

### I 会長挨拶：

2017年度の締め括りとなります、新年度に向け建設的な意見を出してもらいたい。

### II 事務局・会計報告

① 会員数：168名(新人の多数加入)

② 会計報告：29年度収支報告。

### III 活動・行事関係、課題・懸案・確認事項

1. 平成30年度顧問・幹事の役割分担について  
総会時に役員改選承認後、役員選定の予定
2. ならやまプロジェクト：推進体制とサポート体制についても発表する。

3. 3か月と当月スケジュールの検討と確認

4. ならやまプロジェクト関係：配布資料説明

水の補給：再度会員に協力要請と水の衛生面での注意。在庫の抗菌ブルーポリタンクを使用する。

5. 活動報告と予告：詳細は会報誌掲載

- ① 月例研修会 4/16 曾爾屏風岩公園花見
- ② 自然教室 5/14 新緑ならやま観察会
- ③ 歴文研修 5/22・23 古代吉備王国一泊研修
6. イベント(報告と予告)：詳細は会報誌掲載
- ① 3/31 佐保川わいわい桜祭り会員18名参加
- ② 5/4・5 平城京天平祭春 会員24名参加
- ③ 7/16、8/25 「山と川の月間」協賛イベント

7. 第17回(2018年度)通常総会について

- ① 議案書 25日に印刷の上で配布予定。
- ② 収支報告・予算案 会計監査は終了した。
- ③ 実施要領案説明。総会終了後、懇親会を行う。

IV 広報関係：会報誌6月号編成案承認

### V 喫緊案件

幹事会議長・書記担当見直し(専門チーム)

### VI 提案事項：

交付金助成金の申請など、情報收拾。

シニア自然大学校の地域組織部会としての活動。  
サイクリングロードでの自動車の退避場所の確保。

次回 5月29日(火)

以上

## ◆ 申し合わせ ◆

\* 通常活動日【木曜日】や屋外のイベントは、前日19時前のNHKの天気予報(奈良気象台17時発表)で、当該地域の午前の降水確率が60%以上の場合、中止とします。

お問い合わせ:八木

\* 通常活動日が中止になった場合は、翌日【金曜日】を振替活動日とします。

\* 臨時活動日を月曜日にすることがあります。  
(事前に担当役員から連絡します。)



### \* 都市油田

資源小国・日本にとってうれしいニュースがあります。

「捨てればゴミ、生かせば資源」。積水化学が、都市ゴミから「バイオファイナリー」の技術で、エタノールを工業的に生産する事に成功しました。2019年から実用プラントが稼働する予定です。

都市ゴミを分別処理無しに処理してガス化し、「一酸化炭素」と「水素」に変換する。(従来技術)次に、微生物(米ランザテック)を使ってエタノールに転換する。(従来は触媒使用、高温高压下で転換したが、コストが高く工業化はできなかった)ゴミ焼却やエタノール製造時に発生する「二酸化炭素」も大幅に削減できる。

(行々子)

## 会報誌[ネイチャーなら]・第197号

発行：奈良・人と自然の会

URL : <http://www.naranature.com>



編集チーム代表：坂東久平

### 表紙写真「薪割り」

玉(60cm長のコナラの丸太)が、山から大量に下ろされてきました。薪割り機に掛けて薪を作り、棚で乾燥して出番を待ちます。

(ならやまベースキャンプで)